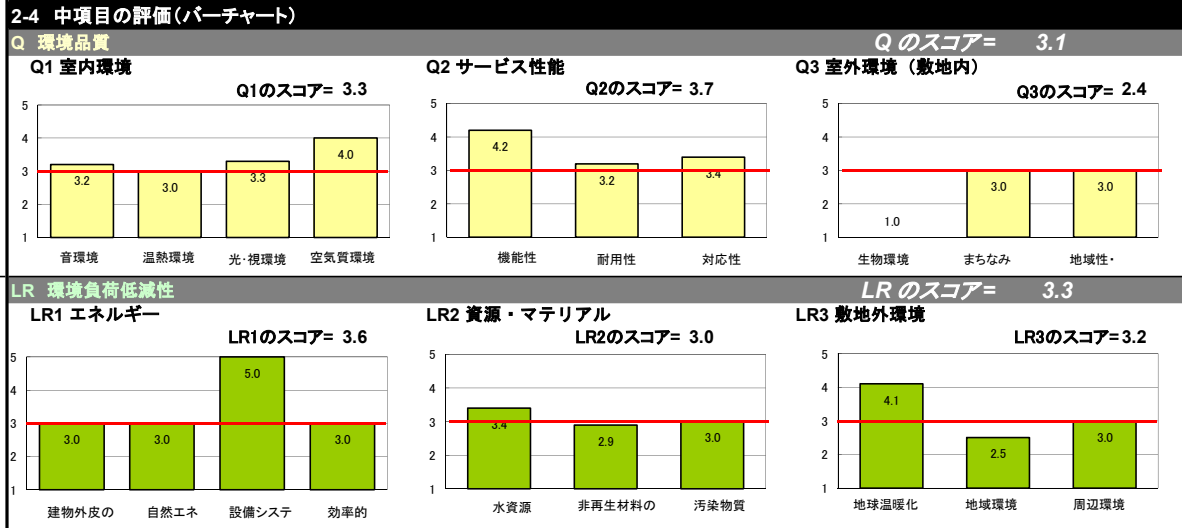
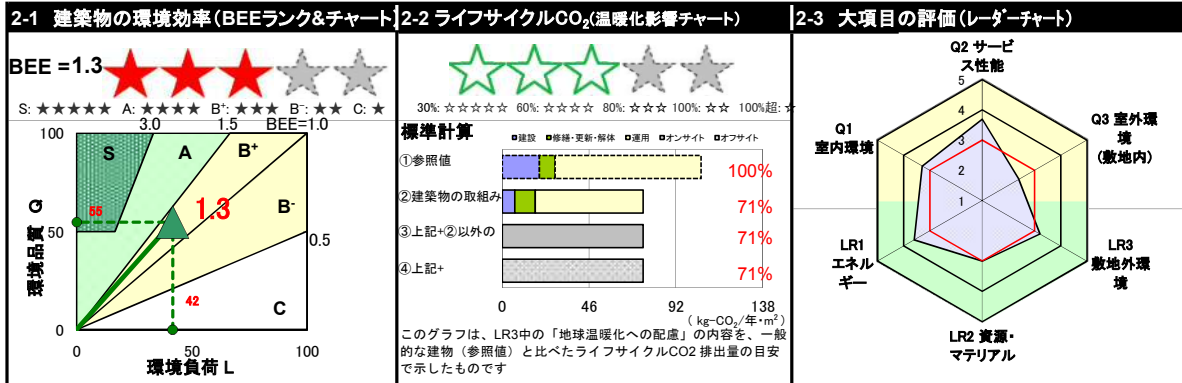


1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	シテイライフ豊橋クロスコート	階数	地上13階	外観パース等	
建設地	愛知県豊橋市前田町二丁目1番5の	構造	RC造		
用途地域	近隣商業地域 準防火地域	平均居住人員	157 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2017年6月1日		
敷地面積	1,560 m ²	作成者	榑日伸設計事務所		
建築面積	381 m ²	確認日	2017年6月1日		
延床面積	3,753 m ²	確認者	榑日伸設計事務所		



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">4.8 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</p> <p>なし</p> <p>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部		建物全体・共用部		共用部(居住・宿泊)		住居・宿泊部分		全体	
配座項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質													3.1
Q1 室内環境													3.3
1 音環境													3.2
1.1 室内騒音レベル													3.0
1.2 遮音													3.0
1 開口部遮音性能													3.0
2 界壁遮音性能													3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													3.0
1.3 吸音													3.0
2 温熱環境													3.0
2.1 室温制御													3.0
1 室温													3.0
2 外皮性能													3.0
3 ソーン別制御性													3.0
2.2 湿度制御													3.0
2.3 空調方式													3.0
3 光・視環境													3.3
3.1 昼光利用													2.6
1 昼光率													1.8
2 方位別開口													1.0
3 昼光利用設備													3.0
3.2 グレア対策													3.0
1 昼光制御													3.0
3.3 照度													3.0
3.4 照明制御													3.0
4 空気環境													4.0
4.1 発生源対策													4.2
1 化学汚染物質													5.0
4.2 換気													5.0
1 換気量													3.0
2 自然換気性能													3.0
3 取り入れ外気への配慮													3.0
4.3 運用管理													3.0
1 CO ₂ の監視													-
2 喫煙の制御													-
Q2 サービス性能													3.7
1 機能性													4.2
1.1 機能性・使いやすさ													3.4
1 広さ・収納性													3.0
2 高度情報通信設備対応													4.4
3 バリアフリー計画													4.4
1.2 心理性・快適性													5.0
1 広さ感・景観(天井高)													5.0
2 リフレッシュスペース													2.3
3 内装計画													2.3
1.3 維持管理													3.5
1 維持管理に配慮した設計													3.0
2 維持管理用機能の確保													3.0
2 耐用性・信頼性													3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振													3.2
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													3.0
2 免震・制震・制振性能													3.0
2.2 部品・部材の耐用年数													3.8
1 躯体材料の耐用年数													5.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													5.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													2.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔													3.0
2.4 信頼性													3.0
1 空調・換気設備													3.0
2 給排水・衛生設備													3.0
3 電気設備													3.0
4 機械・配管支持方法													3.0
5 通信・情報設備													3.0

3 対応性・更新性			3.0	0.29	3.6	3.6	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり			-	-	4.2	4.2	0.50	
1 階高のゆとり		全フロア階高3.01m	-	-		5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			-	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00		-	-	
1 空調配管の更新性	②		3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出	独自③		1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								3.3
LR1 エネルギー			-	0.40		-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		住宅部:品確法等級3	3.0	0.33		-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.17		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.81	5.0	0.33		-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.17		-	-	3.0
集合住宅以外の評価								
4.1 モニタリング			-	-		-	-	
4.2 運用管理体制			-	-		-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水		UB,キッチンの水栓に節湯器具・節水型トイレを設置	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63		-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	再生砕石	3.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		3.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68		-	-	
1 消火剤			-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50		-	-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値76%	4.1	0.33		-	-	4.1
2 地域環境への配慮			2.5	0.33		-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制	独自		3.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	-	
1 騒音	独自		3.0	1.00		-	-	
2 振動	独自		-	-		-	-	
3 悪臭			-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制			-	-		-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			3.0	0.70		-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート
シテイライフ豊橋クロスコート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:4.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 シティライフ豊橋クロスコー

計画上の配慮事項	
総合	計画建物は、住宅地内にありプライバシーの確保に配慮し1階を共用部とした
Q1 室内環境	化学汚染物質の低減の為、F☆☆☆☆製品を全面的に採用した。
Q2 サービス性能	階高を3.01m確保し、快適性の向上を図った。
Q3 室外環境(敷地内)	歩車道分離の計画に努め、アプローチ部分には植栽を配置した。
LR1 エネルギー	消費一次エネルギーを基準値以下となるように配慮した。
LR2 資源・マテリアル	リサイクル材の使用を心がけた。
LR3 敷地外環境	周辺環境に配慮し、適切な離隔距離をとり、環境悪化の低減を図った。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。